

ギタリストのための QY100必修講座

ギタリストのフレンドリー・パートナー
XG音源内蔵、らくちんシーケンサーQY100
ろけんろーしながら、
からさき昌一がその魅力にせまる！

ギターやるなら、QYがいいみたい。

[QY100のくわしい情報はこちら](#)

CHAPTER 01	QY100あらわる！
CHAPTER 02	ききくらべ、アンプシミュレーター
CHAPTER 03	オリジナル・ドンカマを作るのだ
CHAPTER 04	キブンでスケール練習
CHAPTER 05	夜明けの"ソング"
CHAPTER 06	元をとる
CHAPTER 07	ディープに∞に！



これらのプレイヤー、プラグインが無くても、それなりにお楽しみいただけますが、あればより深く、わかりやすくお楽しみいただくことができます。

それぞれのプレイヤー、プラグインはボタンをクリックして表示されるページより、手に入れることができます。



Copyright ©2001 YAMAHA CORPORATION. / Syoichi Karasaki / Noriko Fujihara
All rights reserved.



MUSIC SEQUENCER
QY100
メーカー希望小売価格
¥59,000 (税抜)

▶ **まずは CHAPTER 01
QY100あらわる!**

文：からさき昌一
演奏：ヒロ村田、西野
やすし
イラスト：藤原のりこ

このページでは、FLASH、Acrobat、Windows Media、QuickTimeなどさまざまなマルチメディアフォーマットで参考データを用意しています。

エレキギターはいい！エレキギターは楽しい！エレキギターはともだちだ！エレキギターに、ぎんぎんに"めたる"したディストーションをかけて、「ぐぎゃご！ぐぎゃご」やると、そりゃもうストレスが銀河の果てまで飛んでゆく、ってもんである。

私は一応作曲家のはしくれであるが、楽器は音を"さぐる"時に使う程度で、まともに弾けるとはとうてい言い難い。が、最近トレーニングして上達することに快感を覚えはじめ、毎夜家人の聾聵省みず、エレキギターを抱えては、「ぺしぺし、プチュぽち」と弾いている。

なぜ「ぺしぺし、プチュぽち」かという、それはアンプに繋いでいないからである。ウサギ小屋的日本人家屋では、夜中に「ゴギゃーん」とか鳴らすと、町内会長の山田さんのおじさんに悪いからだ。私には音の出せる仕事場があり、録音用にギターアンプも置いてある。夜中でもそれなりの音量を出せるのであるが、なんだか仕事モードに入っただけで、ココロの底から楽しめない。



やはり、冬ならこたつ、夏ならパンツ一丁の気軽さでギターを楽しむ、というのが正しい日本人アマチュアギタリストの練習風景ではないかと思う。

というわけで、たまにはスタジオに入り、思いっきり大音量で「ぐぎゃご、ごぎぎ〜ん」と鳴らすのであるが、ふだんは「ぺしぺし、プチュぽち」の日々なのであった。

そんなある日のこと、ギタリストのヒロ村田が私の仕事場にやってきた。ヒロはもうかれこれ10数年、私の仕事を手伝ってくれているギタリストだ。私がいろんなジャンルの曲を節操なく作っても、器用にこなしてくれる頼もしいパートナーである。

いつものように、一通り必要なトラックをダビングした後、うだ話をしていると彼がバッグの中からなにやらお弁当箱のようなものを取り出した。

ヒロ村田 「最近これ買ったんすよ」

からさき 「ん？なんだそれ」

ヒロ村田 「QY100っすよ」

からさき 「QY? ああ！そういえばQYシリーズってあったね」

ヒロ村田 「そうっす、そのQYの最新機種」

からさき 「あれ？QYってさ、音源内蔵のシーケンサーじゃなかったけ。村田"打ち込み"とか"DTM"とか嫌いだって、言ってなかった？」



ヒロ村田 「ギタリストが打ち込みやってどーすんですか、嫌いですよ、んなめんどくさいこと。MIDIなんか、わけわかんないすよ」

からさき 「で、なんでQYなわけ？」

ヒロ村田 「ま、めんどくさいことはきらいだけど、これなら使えるかなって思って」

そういえば、QYシリーズはここ数年やけにギタリストの間で人気があるという話を聞いたことがある。にしても、今や骨董品級のアナログ人間、ケータイを持たないことを誇りとする、ヒロ村田が手を出すとは・・・。

ヒロ村田 「これね、ギターつっこめるんすよ」

からさき 「え？」

ヒロ村田 「この中にアンプシミュレーターが内蔵されていて、ほらここ、ここのジャックにシールド繋がれば、リーそくでヘビメタワールドっすよ」



からさき 「ふ～ん」

ヒロ村田 「んで、最初から結構使える"スタイル"ってのが用意されてて、ごちゃごちゃ打ち込みしなくても素早く練習とかフレーズを考えたりするための伴奏が作れるんす」

からさき 「ほー」

自分で言うのもなんだが、私は"MIDI"とか"打ち込み"とかけっこうくわしい。「初級みでい講座」とか「デリシャスXG」とかを連載したくらいであるから、かなりとくいな方である。

また、さんざん仕事でやってきたので"打ち込み"のスピードもそうとう早いほうだと思う。が、「シーケンサーの伴奏でギターを練習する」というのは考えたことはあっても、やったことはない。ギターは私の趣味である。趣味は楽しくなくてはいけない。お金になんないのに、肩のこる打ち込みをやってまで、「シーケンサーの伴奏でギターを練習する」というのは、いやだったのである。

しかしシルバーメタリックに渋く輝くQY100に、私は"びびっ"ときた。私のはまる時、いつもくる、あの"びびっ"、であった。

からさき 「じゃさ、ちょっと音聴かせてよ」

ヒロ村田 「いっすよ。これ、最初からエレキギター用のマルチ・エフェクトが18パターン用意されてるんす」


CHAPTER 02 ききくらべ、アンプシミュレーターへ






Copyright ©2001 YAMAHA CORPORATION. / Syoichi Karasaki / Noriko Fujihara
All rights reserved.

ヒロ村田 「じゃ、僕が遊びで作ったソングデータがあるから、マルチ・エフェクトのプリセットを変えながら、なんか弾いてみるっす」

からさき 「これ、どこでエフェクト変えられるんだ？」

ヒロ村田 「この左上の[AMP SIMULATOR]  ボタンを押して、ランプが点いているならエフェクトがかかっている状態、点いてないならバイパス（原音のみ）な状態なんすね」

からさき 「ふむ、わかりやすい」

ヒロ村田 「んで、その下の[PARAMETER]  ボタンを押すと、マルチ・エフェクトのエディットモードに入るんすよ。で、一番上の段にカーソルがある状態で、[-1 NO]  [+1 YES]  ボタンを押せば、エフェクトセットを切り替えることができるんす」



からさき 「なるほど」

以下はヒロ村田が、プリセットスタイルを使用してソングを組み、それぞれのアンプシミュレーターを使用して聴かせてくれたものだ。QY100とギターだけでできあがっている。

アンプシミュレーター	G01 Multi Drive	プリセットスタイル	001 Hardcore Mixture
------------	------------------------	-----------	-----------------------------

アンプの箱鳴りを感じさせる、かなりヘビイなサウンド。高音部でのチョーキングの伸びが心地よい。リバーブは"ROOM1"でライブなサウンドを演出。PUはハンバッキン（SG）。

Sound VQ	
mono 115KB	ダウンロード
Stereo 275KB	ダウンロード

アンプシミュレーター	G02 LightCrunch	プリセットスタイル	013 Gram Rock
------------	------------------------	-----------	----------------------

ギターのボリュームによって、歪みの音色がかなり変化。カッティングのカラーリングを考えるのもおもしろい。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ	
mono 86KB	ダウンロード
Stereo 206KB	ダウンロード

アンプシミュレーター	G03 StudioLead	プリセットスタイル	013 Power Metal
------------	-----------------------	-----------	------------------------

EQでローハイともブーストされた、パワー感のあるリード向きプリセット。Chorus2でステレオ時の拡がりもきもちいい！PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ	
mono 133KB	ダウンロード
Stereo 320KB	ダウンロード

アンプシミュレーター	G04 CleanLead	プリセットスタイル	043 90's R&B Swing
------------	----------------------	-----------	-------------------------------

軽いオーバードライブにCELESTEというコーラス系エフェクト、そしてリバーブにはHall2。シャープな印象の音色。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ	
mono 163KB	ダウンロード
Stereo 392KB	ダウンロード

アンプシミュレータ	G05 HardBlues	プリセットスタイル	022 70's Hard Rock1
-----------	----------------------	-----------	----------------------------

オーソドックスな歪み。思わず"水上の煙"を弾きたくなくなってしまう。ビンテージなキャビネットの匂いがする？PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ	
mono 123KB	ダウンロード
Stereo 295KB	ダウンロード

アンプシミュレータ	G06 JetFlange	プリセットスタイル	007 Grunge Rock
-----------	----------------------	-----------	------------------------

ディストーションとフランジャーでトリップ！首がちぎれるほど振り回しながら、ぐちゃぐちゃに弾きたい。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ	
mono 147KB	ダウンロード
Stereo 353KB	ダウンロード

アンプシミュレータ	G07 PopRthm	プリセットスタイル	035 Hip Hop2
-----------	--------------------	-----------	---------------------

ブラックミュージック定番のカリっとしたバッキングに。優しく弾けば、絹のようなしゃらーんとした魅惑の響き。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ	
mono 186KB	ダウンロード
Stereo 447KB	ダウンロード

アンプシミュレータ	G08 HeavyRock	プリセットスタイル	026 American Hard Rock1
-----------	----------------------	-----------	--------------------------------

荒い感じの歪みでワイルドにハイウエーを全力疾走！なプリセット。PUはハンバッキン（SG）。

Sound VQ	
mono 88KB	ダウンロード
Stereo 211KB	ダウンロード

アンプシミュレータ	G09 StackLead	プリセットスタイル	020 Latin Rock
-----------	----------------------	-----------	-----------------------

オーバードライブ使用。うすめのコーラス。奥行きのあるリバーブ"ROOM1"で、灼熱のさんたなはいかが？PUはハンバッキン（SG）。

Sound VQ	
mono 116KB	ダウンロード
Stereo 279KB	ダウンロード

アンプシミュレータ	G10 FunkyCut	プリセットスタイル	019 Funk Rock
-----------	---------------------	-----------	----------------------

その名のとおり、ファンキーなカッティングにはこれ！このプリセットをなんにも考えずに選ぶだけで、ファンクマスター。からうちピッキングのカリカリ感もGood!。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ	
mono 150KB	ダウンロード
Stereo 360KB	ダウンロード

アンプシミュレーター	G11 TradVblues	プリセットスタイル	070 SlowBlues
------------	-----------------------	-----------	----------------------

ウォームでナチュラルなドライブ。ピッキングの強弱による歪みのレスポンスがまさにアンプシミュレーター。トレーニングにおすすめ！PUはハンバッキング（セミアコ）。

Sound VQ		
mono	218KB	ダウンロード
Stereo	524KB	ダウンロード

アンプシミュレーター	G12 StageLead	プリセットスタイル	064Med-tempo 8-beat Rock Pop
------------	----------------------	-----------	---

バラードのリードを弾いてみたいプリセット、これは80'sサウンドだ！リバーブの奥行き感が心地よい。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ		
mono	112KB	ダウンロード
Stereo	269KB	ダウンロード



アンプシミュレーター	G13 AirDrive
------------	---------------------

ナチュラルなオーバードライブ、少し深めのコーラスで、ディレイ効果も。カッティング、アルペジオなどのバックングに。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ		
mono	44KB	ダウンロード
Stereo	106KB	ダウンロード

アンプシミュレーター	G14 CityLead
------------	---------------------

ブライトでこしのあるディストーションに深めのコーラス。アカペラでソロフレーズもいいかもしれない。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ		
mono	47KB	ダウンロード
Stereo	111KB	ダウンロード



アンプシミュレーター	G15 PopChorus
------------	----------------------

美しい。彼女を部屋に呼び、アルペジオで愛のフレーズを演奏すれば、夜明けのコーヒーも夢ではないだろう。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ		
mono	75KB	ダウンロード
Stereo	179KB	ダウンロード

アンプシミュレーター	G16 FuzzyMod
------------	---------------------

ダーティでエグいモジュレーションがクレイジー。もしじみへんが生きていたら、使ったかもしれない。PUはシングル（パシフィカ）。

Sound VQ		
mono	44KB	ダウンロード
Stereo	106KB	ダウンロード



アンプシミュレーター	G17 JazzyNight
------------	-----------------------

オクターブ奏法がぴったりな大人の音である。
チョーキングしてはいけない。PUはシングル
(パシフィカ)。

Sound VQ	
mono 43KB	ダウンロード
Stereo 103KB	ダウンロード

アンプシミュレー
タ

G18 Ghost

変態音色。使い道はあなたのアイデア次第。

Sound VQ	
mono 50KB	ダウンロード
Stereo 121KB	ダウンロード

QY100のマルチ・エフェクトは、今やプロスタジオの定番エフェクターSPXシリーズ、直系だそうである。これはもう「おまけ」じゃない。使えるプリセットがしっかり用意されている。

このページで紹介したG01~G12の
サンプル曲のQY100データを用意し
ました。

Windows

Hirodemo.exe (30KB)

[ダウンロード](#)

MacOS

Hirodemo.sit.hqx (15KB)

[ダウンロード](#)

ダウンロード後、解凍しスマートメディア、またはQYデータファイラーを使用してQY100本体にロードしてご利用ください。

CHAPTER 03 オリジナル・ドンカマを作るのだへ

ギタリストのための
QY100必修講座

[01](#)

[02](#)

[03](#)

[04](#)

[05](#)

[06](#)

[07](#)

[▶ NEXT](#)



からさき 「ほんとに4、5分でできたの、これ全部？」

ヒロ村田 「慣れるのにひと晩かかったすけど、慣れたらめちゃうちゃ早いっすよ」

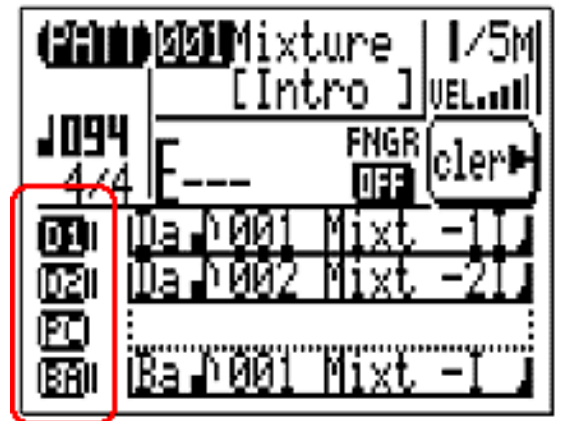
彼はQY100を手に入れた次の日には、前ページのほとんどのデモ曲の伴奏を、わずか4、5分で作ってしまったそうである。

からさき 「でもさ、凝ってるアレンジが多いじゃない。曲のイメージがかなり強いから、たとえばスケール練習したり、フレーズ考えたりする時、ちょっとじゃまかかっていう気もするけど」

ヒロ村田 「全然大丈夫すよ。QY100には"パターンモード"っていうのがあるんすね。この[PATTERN] **PATTERN** ボタンを押してと。これが"パターンモード"の画面っす」

からさき 「お、なんだ？この[D1]とか[D2]ってのは？」

ヒロ村田 「ひとつの"パターン"はいくつかの楽器の"フレーズ"で出来上がっているんすよ。[D1]は"ドラム1"、[D2]は"ドラム2"、[PC]は"パーカッション"、[C1][C2][C3][C4]は、それぞれコード楽器って意味みたいっす」





からさき 「なるほど、それぞれの楽器のプリセットフレーズの組み合わせで、ひとつの"パターン"が出来上がるわけだ」

ヒロ村田 「そうっす。で、それぞれのトラックは、簡単にミュート（鳴らさない状態に）できるんす。ちょっとにぎやかかな、と思ったら、トラックをミュートしてみればいいんす。僕がスケール練習で使ってる"ドンカマ"の作り方をやってみるっす」

"ドンカマ"とは、レコーディングの際ガイドに使用するリズムのことである。スケール練習をする時など、きちんとテンポをキープするためにメトロノームを使うことが多い。メトロノームはそれなりにスティックで嫌いではないが、どうやらこのQY100を使うと、もっとキブン良いガイドリズム"ドンカマ"が作れそうである。

ヒロ村田 「まずこの"カーソルボタン"なんすけど、押してゆくとほら、カーソルが移動していくんすよ。これで設定を変えたいところに持ってゆくわけなんす」

からさき 「うむ。あ、わかったそのそばにある[-1/NO]  と[+1/YES]  で設定が変えられるわけだ」

ヒロ村田 「その通りっす」

からさき 「よくできてるじゃん」

ヒロ村田 「んで、まず自分好みのスタイルを探してみるっす。カーソルを"スタイルナンバー"のところに持って行って、と」

からさき 「おい、"スタイルナンバー"ってなんだ？」

ヒロ村田 「たぶん、音楽の"スタイル"って意味っすよ。ほら、この「データーリスト」の15ページを見るとわかるっすけど、"Rock"とか"HipHop"とかのカテゴリーごとに、代表的なスタイルが全部で128プリセットされているんす」



からさき 「おおっ！すごいな」

ヒロ村田 「んで、僕が最近気に入って練習に使ってるのは、"No.03"の"Hard Core Punk"なんす」

からさき 「カーソルを"スタイルナンバー"のところに置いて、[-1/NO]

[+1/YES] キーを押して行って変えればいいわけだ」

ヒロ村田 「それでもいいんすけど、もっと早く変える方法があるっす。

[SHIFT] キーを押しながら、この数字の書いてある鍵盤

キーを押してもいいんす。"No.03"に変えたかったら、まず

[SHIFT] キーを押したままにしておいて、[3A#Bb]

[ENTER] と押せばいいんす」



からさき 「ひとつひとつ順に聴いてみたいときには[-1/NO]、 [+1/YES] を使い、ぽーんと飛ばしたい時には、今の[SHIFT] キー+数字キー

[ENTER] を使うと便利なわけだ」

ヒロ村田 「ね、よくできてるっしょ？」

からさき 「うむ」

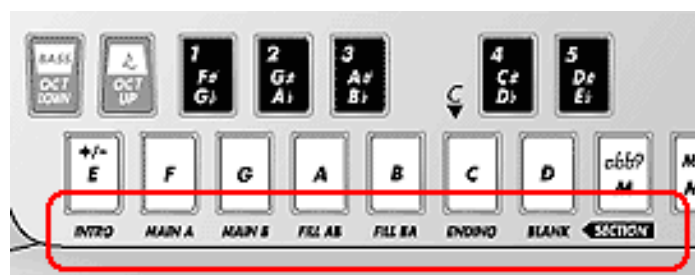
ヒロ村田 「じゃ、ちょっと聴いてみるっすね」

からさき 「？しかし、こんなんで練習用のドンカマに使えるのか」

ヒロ村田 「この鍵盤キーの[E] ~[D]

の下に"INTRO"と

か、"MAIN A"とか書いてあるじゃないすか。押してみてください」




からさき 「おっ！演奏が変わったぞ。そうか、ひとつの"スタイル"の中に、イントロ用とか、Aメロ用とか、エンディング用とかでパターンが用意されてるわけか」



Sound VQ		
mono	134KB	ダウンロード
Stereo	332KB	ダウンロード





ヒロ村田 「そうっす。"セクション"っていうんす。んで、ドンカマに使いやすいのは"MAIN A"とか"MAIN B"」

からさき 「よし、じゃこの"MAIN A"にしてみよう。うん、これなら練習に使いそうだよな。しかしテンポ早いな」

ヒロ村田 「"テンポ"の表示のところにカーソルを持って行って、変えればいいんす」

からさき 「なるほど。とんっと。で、[-1/NO]  キーを押して」

ヒロ村田 「押しっぱなしにすればいいっす。一発で変えるには、"スタイルナンバー"を変えた時と同じように、[SHIFT]  キー+数字キー[ENTER]  でも変えられるっす」

からさき 「おお、そうか！こりゃらくちんだ。じゃ、俺がいつも練習している、テンポ84にしてみよう。[SHIFT]  キー+ ([8]  → [4] ) → [ENTER]  っつ。うん、いい感じだ。しかし、テンポ落としたせいで、ちょっとかったるいかなあ、このバックングのエレキギターの刻み、ない方がいいな」

ヒロ村田 「それも一発っす。カーソルを[C1]のところに持ってゆっす」

からさき 「とんとんとんとん、と。で？」

ヒロ村田 「[-1/NO]  キーを押すっす」



からさき 「うん、バックングのエレキギターが鳴らなくなった。なるほど！」

好みのジャンルから、好みの"スタイル"を見つけて、"MAIN A"か"MAIN B"かでセクションを選ぶ。んで、音の厚みは、楽器パートを好みでミュートして決め、練習したいテンポに変える。わかってしまえば、なんと簡単だろう。

エレキギターの上達には、テクニカルなトレーニング、スケール練習などは、かなりたいくつであるが、避けて通れない。しかしそれも、その時のキブンで"スタイル"を変えれば、飽きずにできそうである。もちろん、上達にあわせてテンポを変えることもできる。

[CHAPTER 04 キブンでスケール練習へ](#)

ギタリストのための
QY100必修講座

01

02

03

04

05

06

07

▶ NEXT



Copyright ©2001 YAMAHA CORPORATION. / Syoichi Karasaki / Noriko Fujihara

All rights reserved.



からさき 「ところでさ、俺、ロックなリードギターやってみたいんだけど、なんかいい練習ないかね？やっぱ、マイナーペンタトニックあたりかなあ？」


ヒロ村田 「そうっすね。僕も最初はマイナーペンタトニックからはじめたっす」




からさき 「じゃさ、なんかスケール練習用のフレーズやってみてよ」

"マイナーペンタトニック"とは何か？ややこしい音楽理論は、本でも買ってもらって勉強してもらおうとして、ここでは『初心者が覚えてしまえば、すぐにロックギタリストなとっててもコンビニな音階』とだけ説明しておこう。押さえる場所を覚え込んでしまい、伴奏にあわせて弾けば、すぐに"それらしく"なってしまう音階である。



ヒロ村田 「やっぱ基本のキー（調）は"A"すかね」


からさき 「そうだな。えーと、キーを変えるのはたぶんこれだな。"E"ってところにカーソル持って行って、[-1/NO] 、[+1/YES]  を使えばいいんだろ？」

ヒロ村田 「正確にいうと、そこはコードの設定エリアっす。カーソルをコードエリアに持って行って、鳴らしたいコードに変えるんすけど、鍵盤の[E]  ~

[5D#Eb]  と[add9M]  ~ [m7(11)m7(b5)]  の組み合わせで、コードを指定できるんす」

からさき 「よく出来てんなあ。こりゃ楽だ。じゃ、コードを"A"にするなら、[A] 

→[add9M]  →[ENTER]  か」


ヒロ村田 「コードを"Aadd9"にしたいなら、[add9M]  を2回押すんす。もう一回押すと、また、ただのM（メジャー）になるんすよ」

からさき 「なるほど、ひとつのボタンで2種類のコードが切り替えられるわけか」

ヒロ村田は、次のようなスケール練習を用意してくれた。
出来上がったオリジナルドンカマで、これを練習してみる。

HTML



PDF	Sound VQ	VIDEO CLIP
 scale.pdf 28KB ダウンロード	mono 136KB ダウンロード Stereo 328KB ダウンロード	Windows Media 544KB ダウンロード QuickTime 672KB ダウンロード

これを、テンポをもっと早く（160くらいまで段階的にあげてみよう）して、間違わずに弾けるようにしよう。

からさき 「で、覚えた場所をてきとーに、符割りを変えて弾いてみる、と」

アンブシミュレー
タ

G05 HardBlues

プリセットパター
ン

03 Hard Core Punk

Aマイナーペンタトニックスケールだけでも、符割りをくふうすれば、かなりそれらしいリードが作れる。PUはハムバッキン(SG)。

Sound VQ

mono 92KB

ダウンロード

Stereo 233KB

ダウンロード

からさき 「うん、楽しいねえ。しかし、"かっこいい"とはいえないなあ。なんかもっとおいしい、練習ないか？」

ヒロ村田 「やっぱ、ロックと言えばチョーキングっすね。あとビブラート、スライド、ハンマリングとか組み合わせると、かなり"らしく"なるっす」

からさき 「なるほど、じゃ、なんか練習用にフレーズならべてみてくんない？できるだけ簡単にできるやつね」

ヒロ村田 「あのう・・・、一応今日は仕事で来てるんで、やっぱギャラを・・・」

からさき 「わかった、じゃ"ほか弁"おごるからさ」

ヒロ村田 「一小節」

からさき 「？」

ヒロ村田 「"ほか弁"なら一小節分っすね」

からさき 「1小節じゃ練習にならんだろー。せめて16小節くらい考えてくれよ」

ヒロ村田 「寿司」

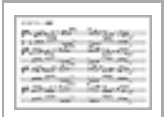
からさき 「くるくる？」

ヒロ村田 「ゆたか寿司！、ついでに鯛のあら煮つき！」

からさき 「ちえ、しっかりしてんなあ。わかったよ」

というわけで、ヒロ村田にチョーキング、ビブラート、スライド、ハンマリングなどをぶっこんで、かんたんな練習フレーズを用意してもらった。

HTML



PDF



frase.pdf 86KB

ダウンロード

Sound VQ

mono 200KB

ダウンロード

Stereo 482KB

ダウンロード

VIDEO CLIP

Windows Media 1,222KB

ダウンロード

QuickTime 1,845KB

ダウンロード

その日の夜、私はヒロ村田をゆたか寿司に連れいった。"いくら"と"うに"禁止を宣言。彼のからだを気遣い、おもに"納豆巻き"、"かつぱ巻き"など、ヘルシーなねたを注文してやった。

私は"心配りの人"なのである。

ヒロ村田と別れたのは夜の11時をまわった頃である。私はその足で、知り合いの楽器屋に行き、すでに閉まっているシャッターをがんがん叩いた。

ほどなく宿直の、もう30歳を越えたというのに、ぴちぴちの女子大生とつき合っているという不届きな店員、佐々木が花柄のパジャマを着てシャッターを開けた。

からさき 「QY100、一個売ってくれ！」



CHAPTER 05 夜明けの"ソング"へ

ギタリストのための
QY100必修講座

01

02

03

04

05

06

07

▶ NEXT



Copyright ©2001 YAMAHA CORPORATION. / Syoichi Karasaki / Noriko Fujihara
All rights reserved.



スタイルを変えたり、テンポを変えたりして、ヒロ村田の作ってくれたフレーズを、ごきげんで練習していたら、朝日がのぼってきた。もう、かなり弾けるようになっていた。さすがに物足りなくなってきたので、村田が言っていた"ソング"を組む、ってのをやってみたくなった。きつともっと楽しいはずだ。

しかし、私は取り扱い説明書とかマニュアルとかがだいっきらいである。私はヒロ村田に電話することにした。

ケータイ短縮のヒロ村田を選び呼び出す。"とーるるー、とーるるー"
なかなか出ない。
"とーるるー、とーるるー"

かわいい声 「はい」

げ？女？・・・私はできるだけ、低く渋い声で言った。

からさき 「あ、もしもし、こちら村田さんの電話じゃありませんか？」

かわいい声 「あ、少々お待ちください・・・ねえ、電話、電話よ、起きて・・・」

これだから、ギタリストは信用できん。

ヒロ村田 「ふわあ、なんすか、こんなに朝早く」

からさき 「"ソング"の組み方教えてくれ」

ヒロ村田 「はあ？」

からさき 「今から、そっちいく」



がちゃっ。

私のキブンは、もう、クラプトンであった、じみへんであった、ジミーページであった。テンションの上だった私は、全速力の機関車トーマスだ。もう、まっしぐらに線路の上をつっぱしってゆくのであった。

ぴんぽ〜ん。

ヒロ村田 「は〜い」

からさき 「や。おはよ」

ヒロ村田 「おはよじゃないすよ。何時だと思ってるんすか、まだ7時っすよ」

からさき 「ばかやろう、7時っていえば、善良な市民は働きに出かける時間だよ。あれ、女はどうした？」

ヒロ村田 「帰りましたよ。もう、めちゃくちゃなんだから」

からさき 「ま、いいや。"ソング"の組み方教えてくれ！」

ヒロ村田 「らんまるの"炭火焼き肉"」

からさき 「ま、またかよ。長いつき合いなんだからいいじゃねえか」

ヒロ村田 「ビジネスっす。らんまるの"炭火焼き肉"」

からさき 「わかったよお、らんまるの"炭火焼き肉"な。しかし、おまえ朝っぱらから、よくそんなあぶらっこいもん思い浮かぶなあ」



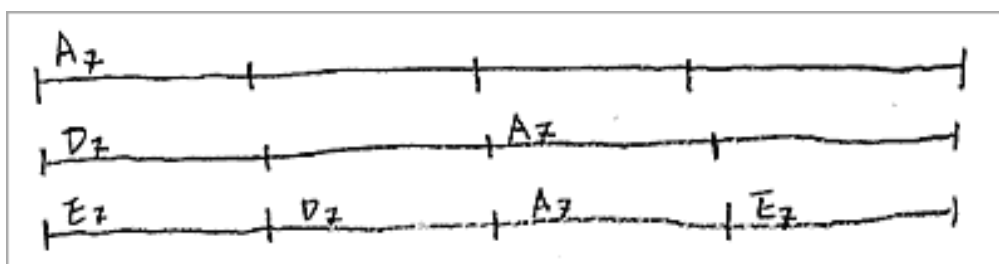
彼のQY100はテーブルの上に置かれ、ギターのシールドはつながったままであった。電源アダプターは使っていない。電源スイッチを入れると、すぐに起動する。"QY100は電池でも動くんだなあ、ってことは、どこでも使えるわけか。トイレとか、ベッドの中とかでじみへんするのもいいなあ"みたいなことを寝不足のハイな脳味噌が考えていると・・・。

ヒロ村田 「じゃ、まずコード進行を用意しましょうか。そうだなあ・・・ブルースの進行でいいかな。基本だし」

からさき 「おお！いいな、それ」


ブルースは12小節単位で、だいたいコード進行が決まっている。ま、ロックギタリストが、100人いれば100人がセッションした経験があるくらいポピュラーだろう。また、もともと、ロックもR&Bもブルースから派生した音楽である。

ヒロ村田 「一番シンプルなブルースのコード進行は、と」



ヒロ村田 「このコード進行を元にして、"ソング"を組んでみるっす。"ソング"を組むには、まず曲にあったスタイルを選ぶっす。"データリスト"の"プリセットスタイルリスト"を見ると、No.66~No.72が"Rhythm & Blues"のカテゴリーになっているっす。んで、この中の"No.70 Slow Blues"を使ってみることにするっす」

からさき 「ふんふん」

ヒロ村田 「で、[PATTERN]  ボタンを押してパターンモードに切り替え、"No.70 Slow Blues"に設定するっす」

からさき 「え？ソング組むんだぜ、なんでパターンモードなんだよ」

ヒロ村田 「なんだって準備は大事っす。これは準備っす」

からさき 「ふ～ん」

ヒロ村田 「パターンモードで、スタイルを変えると、テンポの設定も変わるっすよね」

からさき 「うん。たぶんそのスタイルを作った人の、おすすめのテンポが設定されてるんだろう」

ヒロ村田 「たぶん、そうっすね。でも、これはソングモードでは効かない設定になっているんす。まあ、テンポを変えるのは好みっすけど、最初はおすすめのテンポで試してみた方がいいみたいっすよね。その曲が、より"らしく"なるはずっす。んで、後で"ソング"を組む時のために、このおすすめのテンポをメモしておくんす」

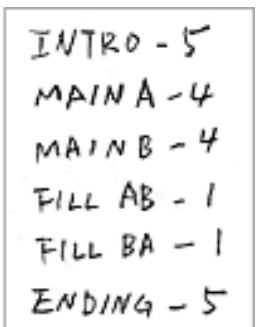
からさき 「なるほど」

ヒロ村田 「んで、次に"INTRO"~"ENDING"の、各"セクション"の小節数をメモしておくんす」

からさき 「？」

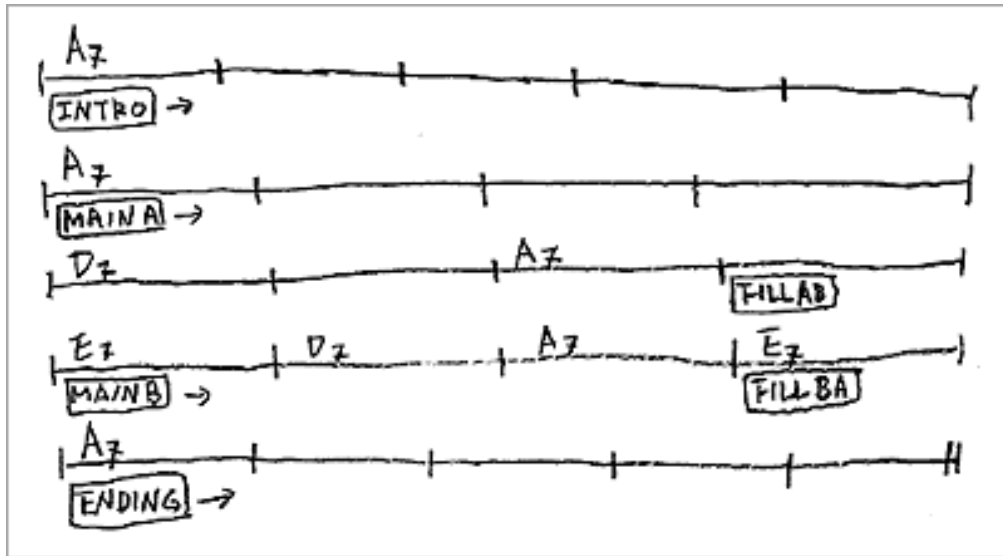
ヒロ村田 「ソング組む、っていうのは、この"セクション"を並べていって、コードを指定してやることなんすけど、たとえば、"INTRO"セクションが6小節で作られているのに、4小節間しか再生しなかったら、2小節分再生されなくて、もりあがらない内にメロディがはじまり、とかなっちゃうじゃないっすか。そのために各"セクション"の小節数をメモしておくんす」

からさき 「なんだかわかんないけど、まあいいや、メモしとこう。"セクション"を切り替えて、小節数とは、あ、この"1/4M"ってのがそうだな。これは4小節あるうちの1小節目ってことか。ふむふむ、よし、OK！次いこう」



```
INTRO - 5
MAIN A - 4
MAIN B - 4
FILL AB - 1
FILL BA - 1
ENDING - 5
```

ヒロ村田 「さっき僕が書いたコード進行の前後に、イントロとエンディングをつけることにするっす。んで、コード進行に入って最初の8小節は"MAIN A"、残り4小節は"MAIN B"、"MAIN A"から"MAIN B"に変わる小節で"FILL AB"、"MAIN B"から"ENDING"に変わる小節で"FILL BA"を使ってみることにするっす。そうそう、最初の小節から、小節番号をふってやっておくと、後で確認しやすいっす」



ヒロ村田 「じゃ、[SONG] **SONG** ボタンを押してソングモードに切り替えるっす」

からさき 「お、いよいよだな」

ヒロ村田 「QY100には、ソングを作るためのいろいろなレコーディングモードが用意されてるんすけど、今日はわかりやすくて確実な、ステップレコーディングで、ソングを作ってみるっす」

からさき 「うん」

ヒロ村田 「まず、何も記録されていない空のソングを指定するっす。買ってきたばかりなら、ソングナンバー21~23にデモ曲が入っているだけで、後はからっぽすから、ソングナンバー"01"とかでいいっすよ」

からさき 「わかった。えと、[SHIFT] **SHIFT** を押しながら、[1] **F# G#** →[ENTER] **ENTER** と。で？」

ヒロ村田 「各セクションを並べていくっす。カーソルを"Pt"というところに移動するっす。これはパターントラックというところっす」

からさき 「うん、パターントラックな。とんとんとん、と。で？」





ヒロ村田 「いよいよレコーディングっす。まず録音 **RECORD** ボタンを押すっす。するとレコーディングモードが選べる状態になるっすから、[STEP]にカーソルを移動して[+1YES] **+1 YES** を押すっす。これでステップレコーディングモードになったっす。んで、プレイ **PLAY** ボタンを押すと、ステップレコーディングスタートっす」

からさき 「ん？なんだ、この升目は？」


ヒロ村田 「左の大きめの升目が"スタイル"を設定する列、右の小さめな升目が"セクション"を設定する列になっているっす」

からさき 「なるほど、一番左の見出しは小節番号と、たぶんその小節の拍数の設定になっているんだな。やろうと思えば変拍子も設定できると。よくできてるなあ」

ヒロ村田 「まず、最初の小節の"スタイル"を"No.70 Slow Blues"に設定するっす。

[SHIFT]  を押しながら、[7]  [0]  →[ENTER]  っす」






からさき 「とんとんとん、っと。お、ナンバーを指定しただけで"SlwBlues"と表示されたぞ。じゃ、次は隣の升目で"セクション"の設定だな。カーソルを右に移動して、と。たぶん、これは"セクション"を直接鍵盤ボタンで指定できそうだな。


[INTRO]  を、とん、と。お、うまくいった」

ヒロ村田 「からさきさん、その調子っす。もう使いこなしまで、後一步っす」


からさき 「で、2小節目に移動して、同じように"スタイル"と"セクション"を設定してやればいいわけだな。しかし、めんどくさいな」


ヒロ村田 「その必要はないっす。一度設定したら、それ以降の小節は変更されない限り、その設定で演奏されるんす。つまり"No.70 Slow Blues"、"INTRO"のままでもいいのなら、なんにも入力しない空欄のままで、いいわけっす」

からさき 「おお、そうか、てことは、次に"セクション"が変わるのは6小節目だから、カーソルを下に移動して行って6小節目の"セクション"の欄において、[MAIN A]  を押す、とで、次は13小節目が[FILL AB]  、14小節目から[MAIN B]  、17小節目が[FILL BA]  、18小節目から[ENDING]  っと！」

ヒロ村田 「最後に、曲のおしまいの約束で、ENDマークを入力しておくっす。えと、エンディングは22小節目までであるから、23小節目の"スタイル"で、[SHIFT] 

キーを押しながら、[+1 YES]  を続けて三回押すっす。すると"129 -- End--"と入力されるっす」

からさき 「[SHIFT]  キーを押しながら、とんとんとんっと。なるほど」

ヒロ村田 「これで、パターントラックの入力は完了っす。終了するにはストップ  ボタンを押すっす」

からさき 「ストップボタンね。とん、と。あ、ソングモードの最初の画面に戻った」

ヒロ村田 「[Pt]のところに●がついてるっすよね。これは、このトラックにデータが入ってるという意味なんすよ」



からさき 「ふ〜ん。よーし、じゃ次はコードの入力だな」

ヒロ村田 「まあまあ、ちょっと休憩しましょうよ。ここまで組んだのを一度聴いてみましょう。テンポは、さっきメモしといた62に変えてみてください」

アンプシミュレータ

G11 TradVblues

プリセットスタイル

070 SlowBlues

わずかの作業でこんなにゴージャスに！

Sound VQ

mono 208KB

 ダウンロード

Stereo 501KB

 ダウンロード

ギタリストのための
QY100必修講座

[01](#)

[02](#)

[03](#)

[04](#)

05

[06](#)

[07](#)

▶ NEXT



Copyright ©2001 YAMAHA CORPORATION. / Syoichi Karasaki / Noriko Fujihara

All rights reserved.

ヒロ村田の部屋に、ゴージャスな音が響き渡る。たいしたもんである。たった、あれだけの打ち込みで、こんなもんが作れるのか。

ヒロ村田 「コーヒー入れたっす」

からさき 「おお、ありがとう」

ヒロ村田 「どうすか？便利っしょ？」

からさき 「うん、なかなかのもんだな。しかし、コードの指定なんにも指定してないのに、イントロとエンディングは勝手にコードチェンジするアレンジになってるみたいだけど？」



ヒロ村田 「そうみたいっすね」

からさき 「これにコードを指定すると、どうなるんだ？」

ヒロ村田 「指定したコードを主キーとして、移調して演奏するようになってるみたいっす」

からさき 「ふ〜ん。じゃ、"A"のブルースなら、イントロのところに、"A"のコードを指定してやればいいわけか」

ヒロ村田 「スタイルにもよるっすけど、"A7"とかを指定すると、ちゃんとセブンスを構成音に活かして、自動的に演奏もするみたいっすよ。この曲もイントロから"A7"しとけばいいっすよ」

からさき 「よし。じゃ、コードトラックをレコーディングしようぜ」




ヒロ村田 「まず、カーソルを[Pt]トラックの隣の[Cd]トラックに移動するっす」

からさき 「OK!。で、次はたぶん録音  ボタンを押して、プレイ  ボタンだな」

ヒロ村田 「そのとおりっす。QY100は使い方をひとつ覚えたら、すぐ次ができるようになるっすねえ」


からさき 「ま、俺が頭いい、ということもあるがな。ん？なんだか、さっきと違うぞ。縦に小節が並んでいるのは、同じだな。しかし、この4つの升目はなんだ？」

ヒロ村田 「コードトラックの入力は、最小1拍単位で行えるっす」

からさき 「あ、そうか。同じ小節の中でもコードチェンジってあるもんな。よし、じゃこの一小節目の一拍目に"A7"を入力しよう。これも鍵盤ボタンが使えるうだな。[A]  →[7(9)7]  →[ENTER]  っと。お、うまくいった」

ヒロ村田 「じゃ次のコードチェンジを入力するっす」

からさき 「譜面を見ると……。次は10小節目で"D7"、12小節目で"A7"、14小節目で"E7"、15小節目で"D7"、16小節目で"A7"、17小節目で"E7"、そして18小節目で"A7"っと」

ヒロ村田 「オッケーっす。後はストップ  ボタンを押して
終了っす」

からさき 「こりゃかんたんだ」

ヒロ村田 「じゃ、この伴奏にあわせて、ブルースを弾いてみるっす。昨日やったマイ
ナーペンタトニックスケールだけ使ってみるっすね」



アンプシミュレー タ	G11 TradVBlues	プリセットスタイ ル	070 Slow Blues
---------------	----------------	---------------	----------------

"G11 TradVBlues"はかなり深い。微妙なピッキングによる音の表情
の変化が素晴らしい。うまい人はさらにうまく、それなりの人はそ
れなりに。PUはハムバッキング（セミアコ）。

Sound VQ	
mono 218KB	ダウンロード
Stereo 523KB	ダウンロード

ヒロ村田が、めちゃくちゃキモチ良さそうに弾いている。なんだか、くやしい。
あっ！しまった。こんなに簡単にソングが組めるんだったら、らんまるの"炭火焼き肉"じゃ
あ高すぎるぞ、損した。

なんとか、元をとっておかねばならない、う～ん。そんなことを考えているうちに、ヒロ村
田の演奏が終わった。

からさき 「で？」

ヒロ村田 「は？これでソングの組み方はわかったすよね。おしまいっす」

からさき 「こんなことはマニュアルを読めば、わかることだろう。これで、らんまる
の"炭火焼き肉"じゃあ、良心が痛むよなあ」

私はこう見えても『ゴルゴ13』と高倉健さんの任侠シリーズ、そして『蒲田行進曲』『ち
びまるこちゃん』をルーツとして、創作活動を展開してきている。いざ、という時の凄みに
は自信がある。左37度に顔をそむけ、14度のうつむき加減から、できるだけ白目を多くし
て、相手を威嚇するのだ。

ヒロ村田 「ひっ！」

からさき 「おらおら、さっさとおいしい"ねた"を教えん
か、こら」

ヒロ村田 「ひっ！ひっ！ひっ！」

すべからくこの世は、焼き肉定食、いや弱肉強食、である。
働かざるもの焼き肉を食うべからず、である。



ヒロ村田 「わ、わかりましたよ。じゃ、もうひとつだけ」

次の瞬間私はこれ以上無い、というほどの笑顔を作ってみせる。

からさき 「わかればいいのよ、わかれば。ね」

緊張と緩和、あめとむちである。しかし、優しくする時の私は、なぜか少しおかまっぽく
なってしまう。まだまだ修行が足りない。もう一度健さんのビデオを見ねば。

ヒロ村田 「じゃ、今組んだソングをコピーするっす」

からさき 「ん？ どういうことだ？」

ヒロ村田 「このブルースを元にして、別なソングを作ってみるんす」

からさき 「ふむ。で？」

ヒロ村田 「まず[MENU]  ボタンを押すっす」

からさき 「お、新たな展開」


ヒロ村田 「Jobの横のボタンを押すっす」

からさき 「さらに新たな展開。なんだか山ほどメニューがあるな。なるほど、たいいていの編集はこの中の命令を実行してやればいいしくみになっているわけか」


ヒロ村田 「カーソルを"22 Copy Song"まで移動するっす」

からさき 「ととととと、とん、と」

ヒロ村田 「んで、[ENTER]  」


からさき 「[ENTER]  っと。あ、わかった。今作ったブルースの"ソング"が、ソングナンバー"01"に入っているから、下段に別のソングナンバーを指定して実行してやれば、コピーできるわけだ。簡単じゃん」

ヒロ村田 「ソングナンバー"02"にコピーしましょう」

からさき 「カーソルを下段に移動して、[+1YES]  と。こういう時は[+1YES]

 の方が早いな。で、[ENTER]  っと。お、時計マークが出て、すぐになにやら一瞬表示されたぞ」

ヒロ村田 「"Completed"って出たんすよ。うまくいったみたいっす。んで、[EXIT]



 ボタンを押すと、ソング画面に戻るっす」

からさき 「うむ、さっきと同じソング画面だな。本当にコピーされたのか？ えと、ソングナンバーを"02"にしてと。おお、"01"とまったく同じになっとる」

どうやら、全ての編集オペレーションは同じような作業で行えるらしい。

ヒロ村田 「コピーした曲に、ちょっと手を加えて別のソングにしてみるっす」

からさき 「ふむ」

ヒロ村田 「[Pt]トラックにカーソルを移動し、録音  ボタン→プレイ  ボタンと、押すっす」

からさき 「[Pt]トラックをレコーディングにするわけだな。とんとん、とん、と。うん、さっき入力した"070 SlwBlues"が一小節目の"スタイル"に入いっとる」

ヒロ村田 「そこを18にするっす。[SHIFT]  +[1]  [8]  →[ENTER]  っす」

からさき 「わかつとる！ [SHIFT]  を押しながら、とんとんとん、と。"18 PubRock"に変わった」

ヒロ村田 「ストップ  キーを押してレコーディングを終了するっす」


からさき 「え？、あ、はい」

ヒロ村田 「ソングモードの画面に戻ったら、テンポを120くらいに設定するっす」

からさき 「テンポ120くらいね。よし、と」

ヒロ村田 「これで終わりっす」

からさき 「え？これだけ？」

ヒロ村田 「じゃ、プレイ  ボタンを押して再生するっす。演奏してみるっす」



アンプシミュレータ	G11 TradVBlues	プリセットスタイル	018 Pub Rock
-----------	----------------	-----------	--------------

かなりビビッドなEQにより、なんだか埃っぽい場末のパブを想像させるサウンド。XG音源の可能性をかんじさせてくれるスタイルだ。PUはハムバッキング（セミアコ）。

Sound VQ		
mono	119KB	ダウンロード
Stereo	284KB	ダウンロード

す、すごい！ほとんど3分クッキングである。いや、手順を知っていれば、一分かかんないかもしれない。おそるべしQY100！

からさき 「これ、めちゃくちゃおもしろいな！もう一つソングを作ってみようぜ。ちょっと待ってくれ、今度は俺が選んだスタイルでやってみるから」

私はもうQY100の達人であった。パターンモードに切り替え、"023 70'sHard2"というスタイルを選んだ。テンポ117。なかなかヘビーでよい。

今作ったソング"02"を"03"にコピーし、[Pt]トラックをステップレコーディングにした私は、最初の小節の"スタイル"を、"023 70sHard2"に変えた。テンポはパターンに設定されていた117に変更。この間、一分もかかっていない。そして、プレイ！

あれ、[MAIN A]がおかしい？一小節多く演奏されるぞ。なんでだ？

ヒロ村田 「各セクションはパターンモードではリピートして再生されるんすけど、ソングモードでは、"INTRO"と"ENDING"だけ、一度しか再生されないしくみになってるみたいなんすよ」

からさき 「どういうことだ？」

ヒロ村田 「さっき僕が使った"18 PubRock"は、最初の"070 SlwBlues"と"INTRO"セクションの小節数が同じ5小節だったんすよ。でも、からさきさんの選んだ"023 70'sHard2"は、"INTRO"セクションが4小節だったんすね。つまり一小節少ない分だけ、次のセクションの"MAIN A"が繰り上がって再生されてしまったわけっす」

からさき 「じゃ、どうすりゃいいんだ？」

ヒロ村田 「[Pt]トラックをステップレコーディングにしてください」

からさき 「ほい。で？」

ヒロ村田 「最初の小節の"セクション"を、"BLANK"にするんす。んで、2小節目に"INTRO"を入れるんす」

からさき 「なるほど！こういう時のために"BLANK"なんていうセクションがあるわけか」

アンプシミュレー
タ

G11 TradVBlues

プリセットスタイ
ル

023 70's Hard Rock2

南っぽい？。汗くさい？男だね！ってかんじのスタイル。PUはハムバッキング（セミアコ）。

Sound VQ

mono 119KB

ダウンロード

Stereo 287KB

ダウンロード

CHAPTER 07 ディープに∞に！へ

ギタリストのための
QY100必修講座

01

02

03

04

05

06

07

▶ NEXT



Copyright ©2001 YAMAHA CORPORATION. / Syoichi Karasaki / Noriko Fujihara
All rights reserved.

寿司に焼き肉。払った代償は少なくはなかったが、はじめて手にしてからわずか3日で、私はQY100をちょちょい、っと使えるようになっていた。

もちろんギターの練習にがんがん使い、昼も夜もろけんろーしていることは言うまでもない。それに曲を作る時のスケッチ、プリプロなどもがんがん使い始めている。



アイデアを逃さないスピードでイメージを音にしてしまえる、この渋いメタリックカラーのお弁当箱は、食べても食べてもおいしい音楽を食べさせてくれる、魔法のお弁当箱だ。

しかしQY100の素晴らしさは、このページで紹介してきた、"かんたん"、"らくちん"だけではない。新たに見直された音源部は、よりぶっとい、ロックなドラムサウンドを生み出し、打ち込みサウンドにうるさいDTMマニアをうならせてしまうかもしれない。



また、データの管理もスマートメディアの採用により大幅にアップ。スマートメディアカードさえ増やせば、作った曲のデータをいくらでも保管しておける。また、SMF形式で保存しパソコンで読み込めば、XGworksなど専用シーケンスソフトウェアでより細かい編集も可能

だ。

QY100のようなシーケンスツールの理想は、必要な機能は簡単に、できるだけ早く使え、より複雑な編集作業にもきちんと対応できるインターフェイスを持っていることである。

QY100はこの理想に近い。残念ながら今回は紹介できなかった、QY100のとんでもない高機能にあなたが触れ、使いこなした時（それもそんなに時間はかからないだろう）確実にあなたの音楽ライフは変化するだろう。

QY100は、あなたにディープで∞な可能性を与えてくれるはずだ。

QY100でスケール練習

This musical score is for a scale exercise in A major (three sharps: F#, C#, G#) in common time (C). It is divided into four systems, each with a treble clef staff and a bass clef staff. The bass clef staff includes fingerings for the left hand, with the strings labeled T (Treble), A (A), and B (Bass). The exercise consists of ascending and descending eighth-note runs, with some measures containing slurs and accents. The fingerings for the left hand are as follows:

- System 1: Treble clef. Bass clef: 5 8 5 7 | 5 7 5 7 | 5 8 5 8 | 8 | 8 5 8 5 | 7 5 7 5 | 7 5 8 5 | 0
- System 2: Treble clef. Bass clef: 8 10 7 10 | 7 10 7 9 | 8 10 8 10 | 10 | 10 8 10 8 | 9 7 10 7 | 10 7 10 8 | 8
- System 3: Treble clef. Bass clef: 10 12 10 12 | 10 12 9 12 | 10 13 10 12 | 12 | 12 10 13 10 | 12 9 12 10 | 12 10 12 10 | 10
- System 4: Treble clef. Bass clef: 12 15 12 15 | 12 14 12 14 | 13 15 12 15 | 15 | 15 12 15 13 | 14 12 14 12 | 15 12 15 12 | 0

QY100でフレーズ練習

This musical score is for guitar, written in E major (three sharps) and common time. It consists of four systems, each with a treble clef staff for the melody and a bass clef staff for the bass line. The bass line includes fret numbers and various techniques such as bends, slurs, and vibrato. The piece is divided into sections by repeat signs and includes dynamic markings like *mf* and *f*. The first system starts with a whole rest in the treble and a bass line starting on the 5th fret. The second system features a *Q.C.* (quarter note chord) marking and a *H* (hammer-on) marking. The third system includes a *S* (slide) marking. The fourth system includes a *D* (double) marking. The piece concludes with a double bar line.